

藤森栄一賞に林さん

(岐阜県
関高教諭)

縄文の石棒製作過程解明に尽力

県考古学会

県考古学会は30日、考古学
研究の発展に功績のあった人
に贈る第49回藤森栄一賞に、
岐阜県関高校教諭の林直樹さ
ん(62)＝同県美濃加茂市＝を
選んだと発表した。縄文時代
に祭祀や儀礼の場で用いられ
ていた石棒について製作過程
や流通状況の解明に尽力。高
校教員として後進の研究者育
成に力を入れていることも評
価された。



林直樹さん

公立高校教員の林さんは、
岐阜県宮川村(現飛騨市)に
出向していた1990年代、
現地の塩屋金清神社遺跡の調
査などに従事。祭祀や儀礼の
場で使われていた石棒の製作
過程を明らかにし、北陸や中
部地方における流通の原点に
なった遺跡の実態を解明し
た。宮ノ前遺跡(同市)調査
では全国的に貴重な旧石器時
代の有機質遺物の検出に成功
した。

2018年からは勤務先で
ある関高校で考古学を中心に
郷土史を学ぶ「地域研究部」
の顧問として活動。高校生と

一緒に遺跡調査を行うなど郷
土史の掘り起こしに携わり、
研究発表を通して成果を地域
に還元している。

2月下旬に開かれた選考委
員会(高橋龍三郎委員長)で受
賞者を決めた。林さんは取材
に「諏訪市出身の」藤森先生
は研究者として憧れの方。重
みのある賞で大変光栄」と語
り、「今後も高校教員である
ことを生かし、郷土史研究で
地域に貢献したい」と話した。
授賞式と記念講演は県考古
学会の総会に合わせて6月1
日に県立歴史館(千曲市)で
行う予定。(小尾口有二)